



S H I R A K A W A

町議会とあなたを結ぶ広報紙

しらかわ 議会だより

No.198

2021年5月1日



白川小学校校歌・校章お披露目式

- 第1回定例会 令和3年度予算成立・・・2
条例改正・補正予算などを可決・・・8
一般質問 4名が町政を問う・・・10
制服の見直しを (梅田みつよ)
道の駅のビジョン作りを (佐伯好典)
有機農業面積の増加を (服部圭子)
地震に備えた防災強化を (藤井宏之)
議会活性化特別委員会を設置・・・14



白川町議会ホームページ

議会のホームページ (<https://www.town.shirakawa.lg.jp/gikai>) もご覧ください。

総額で88億9850万円に

庁舎整備・生活環境などに重点



町議会第1回定例会を3月2日から3月19日にかけて開きました。

町長が新年度に向けての施政方針、教育長が教育運営基本方針を述べるとともに、新年度各会計予算案をはじめ、令和2年度補正予算、条例の改正、人事案件など町長から提出された33件の議案を慎重に審議。全ての議員の賛成をもって、いずれも原案を可決しました。

また、一般質問では、4人の議員が町政の課題点を質問しました。

令和3年度 各会計予算の規模

会 計 名		予 算 額	前年度当初予算額	前年度当初比
一 般 会 計		60億3,000万円	59億3,000万円	1.7%増
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険	9億2,100万円	9億6,200万円	4.3%減
	簡 易 水 道	5億4,800万円	5億5,500万円	1.3%減
	地域振興券交付事業	4,150万円	4,150万円	0.0%
	介 護 保 険	12億1,600万円	11億4,100万円	6.6%増
	後 期 高 齢 者 医 療	1億4,200万円	1億4,740万円	3.7%減
合 計		88億9,850万円	87億7,690万円	1.4%増

町長施政方針（一部抜粋）

令和3年度は「第6次総合計画」、「第2期まち・ひと・しごと総合戦略」を策定し、次の施策を基本として町政運営に邁進する。

- 産業・経済の循環に地域資源を活かす
- 生きがいと活躍の場を作り、健やかな暮らしに活かす
- 最新技術と情報を安全・安心な暮らしに活かす
- ふるさと愛を育み次世代のまちづくりに活かす
- 住み続ける人、住みたい人の良さ、つながりを活かす



令和3年度 新たな予算の概要

…基本施策5つの柱から…

▼産業・経済の循環に地域資源を活かす

(農林業・観光・商工業などの振興)

- ・佐見とつふ排水施設改修工事(設計委託料含む)、ボイラー・冷蔵庫機器更新

1445万円

- ・久室地区ほ場整備測量試験費

1138万円

- ・林業センター(事務室など)改修工事

1670万円

- ・ワーケーションとサテライトオフィス推進経費

950万円

- ・鱒淵茶園防霜施設整備補助金

731万円

▼生きがいと活躍の場を作り、健やかな暮らしに

活かす(保健・医療・社会保障などの充実)

- ・放課後児童クラブの民間運営委託(光の子保育園・佐見地区さみつきクラブを除く) 500万円
- ・サンシャイン美濃白川排水改良工事(設計委託料含む) 1486万円

- ・せせらぎ園介護浴槽、エアコン室外機更新

1295万円

▼最新技術と情報を安全・安心な暮らしに活かす

(道路・公共交通・情報基盤などの充実)

- ・上麻生防災の発生土利活用調査設計委託料

2000万円

- ・地域おこし企業人の活用経費

560万円

- ・ドローンの利活用に関する経費

757万円

- ・避難所用備蓄品、衛生環境向上用消耗品購入

1335万円

- ・新庁舎建設に向けた準備経費(基本計画、基本設計委託料含む)

4920万円

- ・久室地区急傾斜地崩壊対策工事

7200万円

- ・東小倉地区流路工整備(設計委託料含む)

2145万円

- ・白川口団地内装改修工事

1815万円

▼ふるさと愛を育み次世代のまちづくりに活かす

(生涯学習・スポーツの推進、芸能文化の振興など)

- ・白川小学校・蘇原小学校体育館照明LED工事、蘇原小学校体育館外壁改修工事等

1780万円

- ・白川中学校・黒川中学校体育館照明LED工事

- ・マイクバス購入(白川中学校)

722万円

- ・学校再編に関する経費(学校統合準備交付金など)

929万円

- ・体育施設修繕工事(大野台パーク体育館LED工事など)

369万円

- ・体育施設修繕工事(大野台パーク体育館LED工事など)

425万円

- ・地域集会施設整備事業補助金

159万円

- ・老朽空き家等除去事業補助金

150万円

▼住み続ける人、住みたい人の良さ、つながりを活かす

■ワーケーションとは…

「ワーク(労働)」と「バケーション(休暇)」を組み合わせた言葉です。観光地などで電話やパソコンを活用して、働きながら休暇を取る過ごし方をいいます。

■サテライトオフィスとは…

企業本社や団体本部から離れたところに設置されたオフィスをいいます。自社での勤務と同等の仕事ができるよう通信設備が整えられ、混雑が少ない場所に立地されることが多いようです。

予算を徹底チェック

3日間にわたって時間を延長して、質疑や意見を出し、審議を行いました。

令和3年度各会計予算については、議員全員による予算審査特別委員会で、3日間にわたって各課ごとに質疑応答を行い、徹底検証しました。

本会議では、委員長から、9点の審査意見を付して可決した旨報告があり、佐伯好典議員及び服部圭子議員が、各会計予算に賛成討論を行った後採決され、全員の賛成をもって可決しました。主な質疑と審査意見・賛成討論は次のとおりです。

●会計年度任用職員

問 今年度から始まった制度だが、見えてきた課題は何か。

答 仕事をする内容に大きな違いはないが、給料などの処遇改善が図られたものと思っており、募集に当たっては人材確保がしやすくなった。現在87人を雇用しているが、財政的に令和3年度は前年度と比較して約3,000万円の支出が増えることとなり、扶養から外れる方がいる状況も発生している。

●新庁舎建設

問 今後の計画はどのようなか。

答 地元説明会の後、議会庁舎建設特別委員会での協議を踏まえ、最終的には庁舎位置に関する条例を改正して議決いただくこととなる。今までの協議の中で、町としては河岐のパチンコ店の敷地を最適として候補地になっている。今後は議会と庁舎整備検討委員会での協議を図りながら、庁舎の基本計画、基本設計と順序立て、早ければ令和5年度末の庁舎建設着工に向け、進めていきたい。



建設候補地を視察

●森林環境譲与税基金

問 この基金の目的と用途は何か。

答 森林環境譲与税は森林の整備及びその促進に関する施策を行うためのもので、基本的に国から支払われた年度で使うよう指導はあるが、目的があれば基金として積み立てることも可能である。決定ではないが、新庁舎を木造で建設するという案があり、基金への積み立てを始めている。(令和3年3月31日現在基金残高:1425万円)

●自治会の合併

問 なかなか自治会の合併が進まず、自治会長の選出も難しくなっている。ある程度、町からの指導や支援をお願いできないか。

答 地域によって事情が異なり、町が主導で進めることはできない状況である。各自治協議会長へ合併が進まない理由や合併への支援に関するアンケートを行っている。年度末には集計できるので、町でできる支援がないか検討したい。

●自主防災活動費

問 この補助金の定額分が3万円から10万円に変更されたが、その理

由をお聞きしたい。

答 実績報告に合わせ、アンケートの提出を求めている。世帯数が少ない自治会ではどうしても補助金が少ないため、希望する防災活動ができないといった声も多い。町として発電機の整備など停電対策にも取り組めるよう増額し充実を図りたい。

●耐震シェルター補助金

問 この補助金が対象となる方は誰か。

答 木造住宅の無料耐震診断を受けた方で要支援者台帳に掲載された方を対象にしたいと考えているが、他市町村も参考にして、どういった方を対象にするかは検討したい。

●ドローンの活用促進

問 今後、どのような活用を考えているか。

答 実証実験を行い、何か連携できるものはないか検討している。農林業では町内の集落営農組織などで肥料や薬剤の散布、物資の輸送、獣害対策の生息調査を進めたい。ドローンを使って今年度は各自治

協議会の様子を上空から撮影し、CNETで放送している。

●移住希望者向けの住宅確保

問 空き家など、どう住宅を確保する予定か。

答 令和元年度末現在の町内の空き家数は511棟、うち今までに空き家バンクに登録された数は161棟である。現在までに売却41棟、賃貸40棟、取り壊し1棟、取下げ21棟となっており、令和2年度末で58棟の登録数となっている。その内、20棟程度が大きな改修を必要としない物件で、現在5組ほどと交渉中である。国勢調査で空き家情報が一層整理され、新規の空き家を開拓することとしているため、移住者向けの住宅を新築する考えはない。

●グリーンツーリズム協議会運営費補助金

問 国庫補助金がある当事業の運営費補助金の流れと当事業の内容をお聞きしたい。

答 当協議会が国に補助金を申請し、直接受ける仕組みであるが、補助金交付がされる前に運営できる

よう町から一旦、補助金として交付している。その後、国から交付されればその時点で町に戻してもらうこととしている。当事業は来年度までの2力年のものであり、グリーンツーリズムでの観光地づくりを進めるものである。

●サンシャイン美濃白川敷地排水改良工事

問 この工事に対する東白川村の負担はないか。

答 建設当時、東白川村には特別養護老人ホームがなく、病床数に応じた負担割合が決定されている。今回の工事は施設に対する工事ではなく、敷地内への水の流入を防ぐための改良工事である。町ですべて行い、東白川村の負担はない。

●自殺予防対策

問 LINEなどいつでも相談できる体制にならないか。

答 LINEによる相談は対応していないが、今年度からメール相談を始め、1件の実績があった。定住自立圏事業の中で24時間対応の健康相談が開始され、町のホームページでも様々な相談機関につながるようになっているが、今後も相談しやすい体制に向けて改善していきたい。

●白川茶の今後

問 生産者の高齢化や施設の老朽化が進んでいるが、どのように考えているか。

答 令和2年度は新型コロナウィルスにより、お茶の買い取り支援を行っている。また、白川茶産地構造改革計画を令和2年度に作成しており、町内の製茶組合の将来的な統合に向け検討会を令和3年度から始めることしたい。

●地域学校協働活動

問 この活動はどのようなものか。

答 各学校運営協議会ごとに設置し、学校からの協力要請に応じて地域窓口を置き、地域人材との架け橋になる活動である。すでに活動しているところもあるが、町内全てで地域が学校に協力いただける体制や地域を超えた活動も検討していきたい。

審査意見

1. 新庁舎建設は、令和3年度から基本計画、基本設計へと進むこととなる。本町にとって大型事業であり、庁舎整備検討委員会に議員を含めていただきたい。建設には町民の十分な理解を求めながら進められたい。
2. ICT活用は、子どもの教育を始めとして、必要な施設のwifi整備を含め飛躍的に進化することから、計上された予算を出来る限り有効に活用されるよう努められ、webメディア(注1)による関係人口の増加を図られたい。
3. 移住定住施策は、本町の人口減少対策にも関わる。国政調査が行われたことにより、町内の空き家等の情報を得やすくなったが、移住者を増やすためには住める場所を確保することや地域住民のサポートが何より必要である。また、ワーケーションやサテライトオフィス事業を一層推進されたい。
4. 新型コロナウイルス対策は、未だコロナ禍にあり変異株の感染拡大も懸念される。これからワクチン接種が始まり、県の補助事業も始まる。PCR検査が受けやすい体制に加え、感染拡大を防ぐ対策と支援の充実を図られたい。
5. 町の防災強化は、自治会の協力と住民の自助、共助も含めて、一層の強化をされ、防災に関する自治会の状況把握を引き続き実施されるようお願いしたい。また、行政は互いに必要な能力を補い、連携を意識して進められたい。
6. SDGsの推進は、ゴミなどの環境問題だけでなく、リユース(注2)、リサイクル、リデュース(注3)、リフェーズ(注4)を意識した循環型社会への取り組みが必要である。第三セクターなど公共的な運営をする施設では、当事業の推進を図るとともに一層の運営努力をされたい。
7. ドローンの活用を推進するため、職員の研修費として6名の費用が計上されているが、既に研修を受けた9名が、まずは実績を積まれることとし、今年度の予算執行は保留とされたい。
8. 農業振興は、担い手の高齢化が進んでいる。集落営農の支援に加え、小規模事業者や有機農業者への支援をお願いしたい。また、町の特産品である「白川茶」を生産する製茶組合の統合についても慎重な協議をもって進められたい。
9. 若者、子育て世代、共働き世代に対して、ワークライフバランス(注5)を意識し、性別や国籍を超えて、多様性を意識して効果的な対策を図られたい。また、男女共同参画推進計画を作るにあたり、女性リーダーの創出や社会参加を推進されたい。



予算審査特別委員会で当初予算を審査

- 注1) webメディア・・・ インターネットなどを利用して情報を発信しているメディアをいいます。
 注2) リユース・・・ 一度使用したものをそのままの形で再び使用することをいいます。
 注3) リデュース・・・ 必要以上の消費・生産を行わないことをいいます。
 注4) リフェーズ・・・ ごみの原因となる過剰包装などを拒否することをいいます。
 注5) ワークライフバランス・・・ 国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、家庭や地域でも人生の各段階に応じて多様な生き方を選択する社会をいいます。

賛成討論

佐伯 好典議員

令和3年度、一般会計予算及び5つの特別会計予算について賛成の立場で討論をさせていただきます。

令和3年度一般会計予算では、新庁舎建設向け庁舎整備検討委員会の設置や基本設計などの予算が挙げられました。町の防災拠点や町行政の中心としてだけではなく、町の、町民のシンボルとなるよう町民みんなで作り上げた新庁舎、と言えるような住民参加型で進めていただくをお願いします。

防災では、東日本大震災から10年の節目であり、東南海トラフへの関心が高まる中、各自治会への自主防災活動補助金の大幅な増額をはじめ、避難所の環境向上に対しての備品購入、要支援者に向けての耐震シェルター設置補助など、自助、共助、公助の強化へ向けての取り組みに対しても評価します。

町長提案にあったピアチェーレの目的地化は大きな課題です。情報発信や多様なアイデアに長けた地域おこし企業人の活用による活性化とともに築25年を超え老朽化が進む施設に関しても、再生検討委員会等話し合いの場を設置し未来へのビジョンの策定に期待します。

昨年から猛威を奮っているコロナウィルス感染症は、ワクチン接種が開始されるとはいえ、まだまだ予断を許しません、引き続きしっかりと感染対策を講じていただくことをお願いすると共に、予算の執行にあたり常に精査し効果的に執行されることをお願いして令和3年度一般会計予算及び5つの特別会計予算についての賛成討論とします。

賛成討論

服部 圭子議員

令和3年度予算に対し、賛成の立場で討論いたします。国勢調査が行われ、危ぶまれていた地方交付税は同額とし、有利な起債を活用し、さらに基金の運用を視野に入れ、健全財政予算を組まれたことを評価し賛成するものです。今後、庁舎や学校建設を控え、コロナによる経済打撃を受ける町民の増加も予想され、補助金依存体質を警戒し、お金では買えない資源の可能性を伸ばすことが新しい時代にはこれまで以上に大切だと思います。

令和3年は有機農業推進計画の見直しが予定されています。農業委員会と連携し、長年の有機農業実践者へのヒアリングが実施されることを評価しました。

変異性コロナに対し警戒が続く中、オリパラ開催に向けてもPCR検査と早期隔離がコロナ対策には必要です。コロナ対策については、地域医療関係者の意見を十分に取り入れ、学びあいと連携によりコロナピンチをチャンスとされたい。

自治会単位の自主防災力を高めるために自治会への防災対策費の増額、シェルターへの補助等が予算化されました。また、常に自治会の要望をアンケートを取って改善されていることも評価しました。

消防団員に報償費が個別に支給されることになったことはありがたく、関係者のご尽力に感謝したい。また、令和2年度操法大会が中止されても自主訓練を行い、操法大会の意義は別の形で充分達成されたと聞きます。消防団の活性化に向けさらなる行事や操法大会の改革を進められたい。

男女共同参画推進計画の見直しが進められているが、町内女性リーダー等や有識者を交えた計画の見直しをされたい。

4名の賛成者で 定数削減の緊急動議

重要案件により 議会活性化特別委員会での協議となる

令和3年3月19日に開かれた議会定例会で、議員定数の削減を求める動議が細江茂樹議員から口頭で出されました。(賛成者…渡邊昌俊議員、藤井宏之議員、嶋田有康議員)

動議の内容は、議員定数を9人から8人に削減することを求めるものでした。しかし、条例改正を必要とする重要な案件であったため、動議を受け付けることは是非を巡り、紛糾しました。

結果的に、本来受け付けられない内容の動議を受け付けた形でしたので、急きよ議会運営委員会を開催。議員定数の見直しは今定例会の議題にしないこととして、新たに設置した議会活性化特別委員会で協議し、6月定例会でその内容を報告することとなりました。

■動議とは・・・

会議の進行や手続きに関し、議員から議会に対して、なされる単純な提議で、議会等の議決を経るべきものをいいます。

動議は、地方自治法で修正動議と懲罰動議しか明記されていませんが、本町の会議規則には動議に必要な賛成者の数や修正動議について定められています。

条例の一部改正など

33の議案を可決

条例の制定

▼白川町議会議員及び白川町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定

町の選挙における立候補の環境を改善し、候補者間の選挙運動の機会均等を図るため、条例を制定する。

公費で車代、ビラ・ポスター代を支給(限度額あり)。今までなかった供託金を町議会議員候補者は負担することとなる。

条例の一部改正

▼白川町総合計画審議会条例の一部を改正

白川町第6次総合計画の策定に伴い、総合計画及び白川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証を行うため、所要の改正をする。

▼白川町国民健康保険税条例の一部を改正

国民健康保険事業の健全な運営を図るため税率を引き上げることについて、所要の改正をする。

▼白川町小学校及び中学校の設置等に関する条例及び白川町学校給食共同調理場条例の一部を改正

白川中学校と佐見中学校の統合に伴い、関連する条例について所要の改正をする。

▼白川町福祉医療費助成に関する条例の一部を改正

健康保険法等の一部を改正する法律により、保険医療機関等での電子資格確認の運用が開始されることに伴い、所要の改正をする。

▼白川町国民健康保険条例の一部を改正

新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律が公布されたことに伴い、所要の改正をする。

▼白川町介護保険条例の一部を改正する条例

白川町第8期介護保険事業計画の策定に伴い保険料を改定するこ

と、並びに新型インフルエンザ等対策特別措置法の一部を改正する法律等が公布されたことに伴い、所要の改正をする。

▼白川町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正

地方税法等の一部を改正する法律が公布されたことに伴い、所要の改正をする。

▼白川町営住宅条例、白川町営単独住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正

公営住宅法により建設した住宅を用途廃止し、白川町営住宅条例での管理から白川町営単独住宅の設置及び管理に関する条例での管理に切り替えるため、所要の改正をする。

財産の取得

▼デジタル簡易無線機 40台

契約金額 884万1000円
契約の相手方 (株)愛岐通信機販売



無線機

▼スクールバス 1台

契約金額 1,690万7000円
契約の相手方 (株)ケイズワークス

その他

▼公の施設の指定管理者の指定

次の6つの施設の指定期間が今年3月で満了することに伴い、現在指定管理を行っている団体を再指定する。

■管理施設の名称

フオーレふれあいの里、せせらぎの里美濃白川ふるさと体験村、美濃白川生活文化資料館、美濃白川楽集館、白川射撃場、新白川温泉施設

▼第6次総合計画の策定

活力あるまちづくりを推進するため、令和10年度を目標とする計画を認める。

▼白川町辺地に係る公共的施設の総合整備計画を変更

黒川地区で辺地対策事業債を活用し公共事業を行うため、当計画の内容を変更する。

▼固定資産評価審査委員会委員の選任を同意

任期満了に伴い、引き続き固定資産評価審査委員会委員として、安江利朗氏(広野)を、また、新たに本田長武氏(赤河)を、それぞれ選任することについて同意。任期は、令和6年3月25日まで。

▼人権擁護委員の推薦を承認

任期満了に伴い、引き続き人権擁護委員として、尾関幸憲氏(和泉)を、また、新たに榎美寿子氏(黒川)を、それぞれ推薦することについて承認。任期は、令和6年6月30日まで。

工事請負変更契約の締結

▼久室地区急傾斜地崩壊対策工事

変更契約金額(追加)

5,555万9,400円

変更後の請負額

6,704万9,400円

契約の相手方

(株)ニシノ

令和2年度 補正予算

一般会計で

1億3,714万円

などを減額

今回の補正では、令和2年度の事務事業の実施結果や進捗状況を精査し、不要額を減額するなどした結果、一般会計では、1億3,714万円を減額し、総額73億9,412万円に、国民健康保険特別会計では、50万円を追加し、総額9億6,710万円に、簡易水道特別会計では、1,600万円を減額し、総額5億6,360万円に、介護保険特別会計では、650万円を減額し、総額11億8,207万円に、地域振興券交付事業特別会計では、翌年度に繰り越して使用できるよう、2,900万円を繰越明許費としました。

追加された主なもの

・地籍調査事業(上佐見)

5465万円

・教育振興消耗品費(コロナ感染予防用)等
525万円

減額された主なもの

・町有林整備事業委託料

2094万円

・障害者支援費事業
2677万円

・国民健康保険特別会計繰出金

600万円

・簡易水道特別会計繰出金

950万円

・高収益作物次期作支援交付金

4169万円

・県営中山間地域総合整備事業負担金等

739万円

・森林整備地域活動支援交付金

1800万円

・道路新設改良工事費

2800万円

・気象河川情報収集システム構築工事費

768万円

・給食センター賄材料費

580万円

主な質疑

問 財政調整基金繰入金が3,688万円減額となったが、この基金は最終的にいくらになるか。

答 予算の中で財源が不足する場

合、必要額を財政調整基金から繰り入れしている。新年度予算でも財政的に厳しく、当基金から3億円の繰り入れを予定しており、確実ではないが、残りは3億円程度になる見込みである。できる限り、基金繰り入れしないよう進めたい。

問 インフルエンザの予防接種を受診した方が増えた理由は何か。

答 当初予算では、1,900人を見込んだが、令和3年1月末現在で2,525人の接種となった。新型コロナウイルスとインフルエンザは、発熱でよく似た症状になると言われ、インフルエンザの予防接種を打っておけば、発熱の機会が減るため、積極的に予防接種を受けられたのではないかと思う。

問 コロナ禍で公民館講座ができなかったと思うが、オンラインを使った講座を開催する考えはないか。

答 講座を開催しなかったわけではなく、感染対策を取り、工夫しながら講座を行っている。公民館でもオンラインについて研究し、少しでも実施できたら良いと思う。

まじの課題を問う

一般質問 4人の議員が登場

問

白川中学校の統合に向けた部活動を



梅田みつよ 議員

問 令和4年4月に佐見中学校が白川中学校に統合する。今後も学校統合が進む中で、町の特色を生かした新たな部活動の創設と今後の見通しはどうか。

鈴木教育長

答 新しい部活動を作る事はできないが、総合的な学習や特別活動の時間を使い、多様な体験をさせることは可能である。スポーツリンク白川の活動と連携を図りながら、学校の教員だけに頼らず、地域の皆様が指導者となつていただくことをお願いしていきたい。

問

学校の制服デザイン見直しを

問 現在の制服は、白川町が合併した60年程前のデザインである。長年着用され、歴史があることは評価するが、今の時代に合った制服も必要な事だと思う。どのように考えているか。

鈴木教育長

答 デザインについて、佐見中の制服は昭和22年頃、白川中の制服は昭和39年頃のものである。白川中学校では制服以外のジャージ、体操服、カバン、上履きなどを保護者等の同意のもとに変更してきており、教育委員会が一つ二つ決めてはいない。今後の制服の在り方については、関係者と議論が必要だと考えている。

問 コロナ禍では、衛生上の課題から制服の在り方も変わってきている。デザインや素材などを見直すことも必要ではないか。

鈴木教育長

答 今後、LGBTの子どもにも配慮した対応も必要と考えている。また、制服そのもののだけでなく、登下校の方法、更衣室の整備、校内の動線なども併せて総合的に議論することが必要である。

問

通学時に備えたトイレ整備を

問 佐見中学校が統合すると、通学距離の長さが課題である。一番遠い生徒は、朝6時40分にバス停を出発する。約50分の通学時間を考えると途中にトイレを整備する必要があるか。

藤井教育課長

答 本町には、佐見中学校以外でも50分以上かけて通学する児童生徒がいる。場所、維持管理などの課題があり、トイレを整備する予定はない。学校では、子ども110番の家や沿線上の民家や事業所で借りるよう指導しているが、最近そういった事例は聞いていない。

問 コロナ禍では民家でトイレを借りることは容易ではない。体調不良に備え、子どもたちが安心して通学するには、やはり整備が必要である。整備しないのであれば、バス内に携帯用のものを配備することが必要ではないか。

藤井教育課長

答 全町の子どものためにトイレを整備するのは難しい。地元からの声があれば検討したいが、衛生上・防犯上の管理をどう確保するのが課題となる。また、バス酔いなどをした場合に備え、車内に処理剤・凝固剤を用意している。



公衆トイレ

問 不意の天候に備えた置き傘や自転車小屋などの整備も必要と思うがどう考えているか。

藤井教育課長

答 自転車小屋は、必要があれば設置することへの助成を検討したい。その他に、通学に対する様々な意見を聞いてみれば、情報提供をお願いしたい。

問 目的地となる道の駅への
具体的な取り組みを



佐伯好典 議員

問 新年度予算において、道の駅に寄与するものがないように見受けられるが説明を求めたい。

長尾企画課長

答 前年度に行ってきた町の支援を継続する形で予算を計上している。魅力ある道の駅となるよう引き続き努力して参りたい。

問 過去に設置された道の駅再生ビジョン検討委員会等を立ち上げ検討を行う予定はあるか。

長尾企画課長

答 具体的な計画は現在ないが、施設の老朽化問題も含め、検討委員会の設置を検討したい。

問 道の駅温泉は令和4年に閉鎖予定だが、その後の計画はあるか。

長尾企画課長

答 閉鎖後の計画は、先の質問で

答えた検討委員会にて新年度中に具体的な計画を検討したい。

問 町Webメディアの
活用促進を

問 情報発信は、観光やふるさと納税など新たな関係人口を築いていくために重要だと考える。町のWebメディアはどこに向け、どんな意図で発信されているか。

長尾企画課長

答 町民と町外向けの両方であり、白川ファンや新たな関係人口の拡充のために有効な手段であると認識している。

問 情報発信のルールはあるか。

長尾企画課長

答 運用規定を設け、情報発信に心がけている。

問 町と観光協会のSNSが同じ内容を発信していることがあり、無駄な作業と言える。今後の改善をお願いしたいがどうか。

長尾企画課長

答 観光協会と行政、それぞれの特徴を生かしたものを構築できないか、協議していきたい。

問 ユーチューブとCNETの更なる連携の計画はあるか。

長尾企画課長

答 毎月の役場情報をユーチューブで公開したい。また、地域おこし企業人制度を活用し、Webメディアによる関係人口の創出に取り組む。他にあればご教示願いたい。

問 すべての放送がユーチューブで見られるべきだと考える。行政手続き等も発信したらどうか。また、情報発信の戦略については、地域おこし企業人も活用するのか。

長尾企画課長

答 参考にしたいと思う。マイナンバーカードなどの普及も検討を進めたい。戦略についても地域おこし企業人を活かしていきたい。

問 カーボンニュートラルにつながる未利用林地残材（以下「残材」）の活用を

問 薪ストーブを導入した町民に対して、導入後の調査はどのようなか。

三宅農林課長

答 聴き取りを行った結果、ほと

んどが自分の山で調達され、残材の利用はなかった。

問 残材活用の環境整備を考えるべきではないか。

三宅農林課長

答 残材の定義もなく、活用も含めすぐに回答できない。

問 定義がないのは如何なものかと思う。急いで定義をされたい。

三宅農林課長

答 今後計画を立てていく中で、定義も考えていきたい。

問 今年度予算では林道の新設、改良が多く、残材活用に向けてのルールを作るべきと考えるが計画はあるか。

三宅農林課長

答 コンサルタントによる調査をもとに森林資源の利活用と森林整備を計画していきたい。

問 町内全ての薪ストーブユーザーへ残材を供給することはできないか。

三宅農林課長

答 企画課と相談をしながら、どこまで対応ができるのか検討したい。

問 有機農地を15年後に25%へ



服部圭子 議員

問 国は2050年までに有機農地面積の目標を25%としている。有機農業が進んでいる本町でも、2035年までに25%にする考えはないか。

横家町長

答 農林水産省は「みどりの食糧システム戦略」の中で、有機農業の2050年までの面積目標を25%にすることを検討しており、農業生産から発生する温室効果ガス排出抑制が主目的である。数値達成に向けては、技術革新がないと25%を目標とするのは難しいと思う。白川町での有機農業の推進は、引き続き、ゆーきハートネットを通じて、支援していきたい。

問 県は今年度、有機農業推進計画を見直し、①農業委員会の参画、②研修会の推進、③給食への

有機農産物の積極的使用など一歩踏み込んだ内容となっている。本町でも推進計画の見直しを検討しているか。

横家町長

答 本町では平成22年に推進計画を作成しているが、今まで見直しをしておらず、見直しが必要と考えている。農業委員会等も関わって計画の見直しを行っていきたい。

問 プラスチックごみの減量を

問 人口が減少しているのに、ごみの量は増加している。ゴミを減らすプロジェクトを作り、進める考えはないか。

横家町長

答 自治体を取り組めるのは、使用量を減らし、回収・リサイクル率を高めることである。手始めに昨年からペットボトルのラベル、キャップを外す取り組みを始めている。町民のゴミ出しマナーは、回収業社から評価されているが、ゴミの分別は町民の皆さんに大変な負担をおかけしている。ゴミの減量化に向け、収集方法などにつ

いて自治会長会議などで意見を伺いたい。

問 日照不足解消を

問 杉やヒノキが伸び、住宅や畑の日照不足が多くの場所で起きている。伐採を促す補助制度はあるか。

三宅農林課長

答 凍結防止の道路景観整備事業、獣害防止のバッファゾーン事業、枯れ木などの障害木の撤去の補助金制度はあるが、住宅や農地の日照に対応する事業はなく、また創設は考えていない。まずは、地域内で問題を整理して、森林整備に繋がっていただきたい。林務基盤係では、現場確認やアドバイスも含め行っているので、相談していただきたい。

問 学校の統合計画見直しを

問 将来的な学校統合では、小学校も白川中学校と同じ1カ所とする計画だが、上佐見からの通学は小学生にとって長時間となる。小学校の統合は、30分前後で通える

場所とするため、白川小学校を残し、黒川地区と蘇原地区のどちらかで1校とし、町内に小学校を2カ所設置するよう、小学校の位置を検討しなおす必要があるのではないか。

鈴村教育長

答 方針では、町内の学校配置を3小1中とし、その内の1小1中は現白川中学校の場所に施設一体型小中学校の建設を目指しており、将来的にはその3小1中を一つの義務教育学校に切り替えていくというものである。これは令和元年9月の答申をもとに、翌年1月に教育委員会が発表した方針であり、概ねその方針に沿って進めたい。統合に通学時間を吟味することは大切だが、その他の条件も加えて判断すべきである。

問 複式学級で10人以下になった時点で佐見小学校を白川小学校に統合する考えはないか。

鈴村教育長

答 そのような考えはない。佐見小学校では指導の工夫や改善に努力していくが、教育委員会では関係する方々との懇談も行い、良い方法を検討していく。

問 東日本大震災から10年を迎えて



藤井宏之 議員

問 東南海地震と同時に豪雨が重なった場合の本町の対応についてお聞きしたい。

総務課長

答 東海地震、東南海地震、南海地震、この3つは30年以内に非常に高い確率で発生すると言われ、しかもほぼ同時に近い時間差で発生するとの情報も聞かれる。

町においては防災計画の中で、南海トラフ地震については震度6弱を、その他に心配される地震として阿寺断層系の地震は、それよりさらに大きな揺れとなる震度6強を想定している。災害を100%未然に防ぐことは不可能であり、複合的な災害の発生も当然想定される。

町としては、あらゆる災害を想定しながら、「白川町国土強靱化地域計画」に沿って、ハード、ソ

フト両面にわたって防災・減災対策を講じるとともに、指定避難所等の機能強化を進めている。避難所の住み分けを行い、備品の整備についても毎年少しずつ積み上げ、必要数の充足を図っている。また、今年から着手した気象・河川情報システムの更新ももうすぐ完成することとなる。

令和元年から2年にわたって、各自治会に対し、3万円と1世帯500円分の補助金を交付して、備品の購入など防災対策強化の一助としてきたが、新年度において3万円を10万円に増額すること



令和2年度の防災訓練

災害時の情報収集のために

- 防災行政無線音声告知端末の動作確認を
停電時でも受診できるよう、年に一度は確認しましょう。
- 「すぐメール白川」の登録を
緊急情報をはじめ、暮らしに役立つ情報がLINEとメールで得られます。
ぜひ、ご登録ください。



としている。それぞれの地域で取り組む防災・減災対策や緊急避難場所の機能強化等に使用していただき、これを機に、地域ごとで防災について話し合う機会が増えることにも期待を寄せている。

防災に完璧の備えはなく、まずは自助、共助、公助、それぞれが役割分担しながら機能強化を図ることが大切であり、上手に情報共有を図る中で、いざという時に、うまく連携し、機能する仕組みを構築できれば、町の防災力は飛躍的に向上するものと思っている。

庁舎建設特別委員会を開催

建設場所を、河岐のパチンコ店敷地一帯とすることを認める。

第8回 令和3年1月15日

- ・町から建設用地について報告を受け、新庁舎建設の候補地は土地買収に見通しがついたため、パチンコ店の場所にしたいと提案があった。

候補地案に賛成…5人
候補地案にすぐ賛成できない…2人

第9回 令和3年2月2日

- ・パチンコ店一帯の土地を新庁舎の候補地にする旨を、地元住民説明会を開催して説明することとし、全員の賛成を得た。

第10回 令和3年2月12日

- ・パチンコ店の現地視察を実施する。

令和3年3月30日

- ・地元住民説明会が開催される。

議会に関する内容を紹介

議会活性化特別委員会(委員長:服部圭子、副委員長:梅田みつよ)

コロナ禍にあって、議会の責任が増す中、議会がその機能をより発揮しやすくするため、来期の議会がさらに町民の信頼を得る議会となるよう、次の4点について、調査・検討・協議するため議会活性化特別委員会を設置しました。

- ① 適正な議員定数
- ② 報酬や政務活動費
- ③ 議会の公開に関すること
- ④ 議会基本条例の制定

【適正な議員定数に対する考え】

現在の議員定数は9名です。平成17年の合併破綻時に財政的な側面から議員定数15名を9名に削減しましたが、その後の見直しはされてきませんでした。定数の見直しは、様々な視点から調査・研究しなければなりません。

現時点での議員の考えは次の3つです。

【増数案】・9人から10人～12人へ(1人)

- ・委員会の活動には、最低6人が必要であると言われており、6人×2つの委員会の12人が必要。
- ・小選挙区制の名残が濃い本町では、地域・年齢・男女などバランスの取れた議員が選ばれやすくするため、10人が必要。

【維持案】・9人のまま(4人)

- ・削減すると執行機関への監視機能が弱まり、町民にとって不利益になる。また、多様な人材が確保できず、偏った議会構成になる。
- ・面積の広い本町では、最低でも9人が必要。
- ・無投票選挙が2回あり、増数は不適當だが、減らすことは慎重に。

【削減案】・9人から8人へ(4名)

- ・人口減少が進むことから削減すべき。
- ・町民から削減した方が良いといった声がある。

【白川町議員の現在の報酬額】

議 長 280,000円(月額)

副議長 225,000円(//)

常任委員長

220,000円(//)

議 員 210,000円(//)

○別途、期末手当や費用弁償あり

【政務活動費とは】

地方自治法第100条第14項には「政務活動費」制度が設けられています。議会の議員の調査研究、その他の活動に資する必要な経費の一部が交付されるものです。

【議会基本条例とは】

議会及び議員の活動の充実と活性化を目的として、議会運営に必要な基本事項を定めた条例をいいます。この条例は、議会における最高規範となるものです。

議会を傍聴しませんか

次の定例会は、下記の予定です。

6月17日(木) 一般質問

18日(金) 条例、補正予算審査・
本会議

※都合により変更となる場合があります

議員用タブレットの導入を決定

令和3年度の予算で、議員用タブレットを導入することとなりました。コロナ禍にあってオンライン化を図り、議員間の情報共有ができるよう進めるものです。

また、オンライン研修での利用や会議のペーパーレス化を図ることも期待できます。利用しやすい環境整備などを含め、導入の方針や利用する際のガイドラインを協議しています。

自治体デジタル化の課題と議会の役割(令和3年3月14日) (ローカル・マニフェスト推進連盟主催によるオンライン研修)

研修は、RPA活用による投資で共通基盤システムの導入など行政情報の最適化や地域情報のデジタル化の推進などの内容でした。共通基盤システムの導入では、新しくなる行政情報システムの更新業務の外部委託が抑えられ、本町でも大いに活用すべきと感じました。また、専門的な職員がいない地方の自治体でも「デジタル活用支援員」制度の活用を進めていくことが可能であり、大いに提案したいと考えています。最後に、デジタル化に向けた議会の役割ですが、今年度、ようやく議会にもタブレットが導入されます。議会が積極的にデジタル化を学び、又は活用し、行政のデジタル化を促せるよう努力していきます。

佐伯好典



□ RPAとは…

Robotic Process Automationの略称で「人間の代わりに業務をこなしてくれる自動化ツール」のことです。特徴として

- 1、システム構築が不要でプログラミングの必要がなく、作成や修正が容易。
- 2、webサイトやシステムなど、ツールをまたがった業務に幅広く対応。
- 3、24時間365日稼働

等が挙げられ、人手不足の業務改善やシステム改修によるコストの削減、働き方改革などに有効なツールです。

地方議会の位置付けを明確に規定する地方自治法等の改正求め、 全国町村議会議長会 第72回定期総会(令和3年2月9日)で決議

住民の代表である議会の果たすべき役割と責任が格段と重くなっている中、地方自治法には「議会を置く」としか規定されていない。議会に対する住民の理解を深めるためにも、議会の位置付けや議員の職務等を明確化する地方自治法の改正を行うことは極めて重要である。

全国町村議会議長会では、重要かつ喫緊の課題を早期に実現するよう地方自治法等の改正を強く求める。

- 1、議員の請負禁止の範囲を明確化し、請負による規制を緩和すること。
- 2、立候補に伴う企業等による休暇を保障し、不利益な取扱いを禁止するための法改正を行うこと。
- 3、低額である町村議会の議員報酬改善に向け、町村に対する地方財政措置の充実等を図ること。
- 4、厚生年金への地方議会議員の加入が早期に実現するよう進めること。

□ 請負禁止とは…

議員などの公職にある者が公正な職務の執行等を確保するため、地方公共団体に対し請負をする者又は請負をする法人の役員であることを禁止するものです。

議会の動き(1月21日～4月20日)

1月

- 25日 例月出納検査
- 26日 子ども議会(白川小・蘇原小・黒川小)
議会議員協議会(議員会)

2月

- 2日 庁舎建設特別委員会・オンライン研修
白川町総合計画審議会
- 9日 国民健康保険・介護保険等運営協議会
- 12日 議会運営委員会、庁舎建設特別委員会
議会議員協議会(議員会)
- 16日 地方財政対策等説明会
- 19日 可茂町村議会議長会
- 22日 議会議員協議会
- 25日 例月出納検査
白川小学校公表会及び校歌・校章お披露目式、
議会議員協議会(議員会)

3月

- 2日 白川町議会第1回定例会(初日)
- 3日 予算審査特別委員会
白川町議会第1回定例会(2日目)
- 11日 白川町議会第1回定例会(3日目)
- 17日 予算審査常任委員会(1日目)
- 18日 同上(2日目)
町内中学校卒業式
- 19日 同上(3日目)
白川町議会第1回定例会(4日目)
- 24日 例月出納検査
町村議会議長会評議員会
- 25日 町内小学校卒業式
議会活性化特別委員会

4月

- 7日 議会広報編集委員会
- 9日 議会活性化特別委員会
- 15日 議会議員協議会
議会活性化特別委員会

全国町村議会議長会 自治功労者表彰



渡邊昌俊 議員

町村議会議員として15年余勤められ、その功績が顕著であることから、渡邊昌俊議員が2月9日に全国町村議会議長会から自治功労者表彰を受けられました。受賞をお祝いし、これからの更なるご活躍を祈念申し上げます。

表紙は語る

表紙の写真は

「白川小学校校歌・校章お披露目式」の様子

令和2年4月から始まった新たな白川小学校では、約1年をかけて制作された新しい校歌と校章のお披露目式が行われました。

あとがき

コロナによる緊急事態宣言がようやく解除されました。ワクチンの接種も4月から始まり、少しだけ明るい兆しが見え始めたように感じます。ただ、ワクチンも2度の接種が必要なことや、副作用の問題、あくまで任意であり強制されるものではないことなどを踏まえ、万能ではないことをしっかりと意識し、コロナ禍が去ったのちに「昔と同じ生活」があるという考えを改めなくてはなりません。これからの世の中はいわゆる「ニューノーマル」コロナ感染を想定した生活様式へと変えなければならぬのです。常識を変えるということは大変な苦労がありますが、自分自身をはじめ町民の皆さんにも、意識をもって取り組んでいただきたいと思います。

さて、3月定例会では、令和3年度予算が全員賛成で可決されました。新庁舎建設や来年4月の佐見中学校と白川中学校の統合へ向けての予算も組まれ、大きな事業が始まっています。特に新庁舎は町のシンボルとして誇れるものにするため、町民参加型での庁舎建設になるよう意見を出しました。また、議員定数削減の動議もありました。町の人口が減っていく中、議員定数の削減は合理的と思うかもしれませんが、時代に応じて素早い変化が求められる今、多様な意見を以て議会がしっかりと機能を果たしていくために必要な議員定数を様々な視点でしっかりと議論を深める必要があると考えています。

最後になりましたが、定例会の最後に今期をもつて町長が辞任されると表明されました。2期にわたり町政の舵取りお疲れ様でした。我々議員も改選が迫っています。お互いに残すところ僅かですが、町民の皆様のためしっかりと役割を果たしていくよう日々努力してまいります。

佐伯好典

この広報誌には再生紙を使っています。